

人間と機械の「協働」によるライティング・フィードバック  
 New Writing Feedback:  
 A Collaborative Approach Utilizing Human and Machine Evaluation

田中真理, 名古屋外国語大学名誉教授  
 坪根由香里, 大阪観光大学

Mari Tanaka, Professor Emeritus, Nagoya University of Foreign Studies  
 Yukari Tsubone, Osaka University of Tourism

## 1. はじめに

日本語教育を行う上で、フィードバック (FB) は教師と学習者の重要なコミュニケーションの1つである。教師による効果的な FB は、学習者に上達のための指標を与えうる。本ラウンドテーブルでは、「書く」という表現リテラシーの面から、これからのライティング FB のあり方について考えた。具体的には、オンラインの教師支援ツール (機械) を活用しながら教師が学習者に対して行う FB について検討した。以下、2. ライティング・フィードバック, 3. ラウンドテーブル・ディスカッション, 4. 結語, の順で述べる。

## 2. ライティング・フィードバック

### 2.1 第2言語 (L2) ライティング能力

ライティング FB は、大きな括りとしては、書かれた作品に対して FB することである。FB の対象となるのは無論書かれた作品全体であるが、第1言語のライティング (成人) の場合には主としてその「内容」に関してであろうし、読みにくければ「構成」に対してコメントがつくこともありうる。一方、第2言語 (L2) ライティングの場合は、どうだろうか。通常は、「内容」や「構成」に、文法や表現等の不自然な箇所や間違いに対する訂正 FB (written corrective feedback) が加わる (cf. 田中, 2015)。

そこで、L2 ライティングを検討するに当たっては、まず L2 ライティングには「内容」や「構成」、「読み手に対する配慮」等を考える writing expertise (ライティングの専門的な知識) と L2 proficiency (日本語能力) の2つの側面がある (cf. Cumming, 1989) ことを認識しておく必要がある。そして、ワーキングメモリーの点から考えると、L2 ライティングの場合、L2 proficiency が低いと、「文法」や「語彙」等にメモリーをとられ、「内容」や「構成」について十分考えられないと言える。また、ライティング FB は、教師のライティング観、評価観が前提となっていると考えられる。そこで、次にライティング評価について検討する。

### 2.2 パフォーマンス評価としてのライティング評価

ライティング評価がパフォーマンス評価として認知されるようになって既に久しい。ライティング・テストは、かつては選択式問題等の間接テストとして行われていたこともあったが、今日では実際に書かれたものを直接評価するパフォーマンス・テストとして認知されているだろう。しかし、同時に人間が評価するパ

パフォーマンス評価における一致の難しさも、多く指摘されているところである (Hamp-Lyons, 1991, 2007 ; Weigle, 1994, 1998 ; McNamara, 2000 ; Kondo-Brown, 2002 ; 田中・長阪, 2009 ; 田中・坪根, 2011 ; 坪根・田中, 2015 ; 田中, 2016)。

そもそも人間によるパフォーマンス評価にこれが絶対というものはない。しかし、入学試験やプレースメント・テスト、成績を出したりするときなど点数を1つに決めなければならないことも多々あり、複数の人で一致させなければならない場合もある。しかし、人間による評価の一致は簡単ではない。そこで、不一致の要因について考えてみると、不一致には以下の2つの側面があることが分かる。

- (1) 個人 (評価者) 内の評価の不安定性
- (2) 複数の評価者間の評価の不一致

(1) は評価者内信頼性 (*intra-rater reliability*) と関係し、具体的には、疲れ、順序効果、ハロー効果等が影響する。同じ評価者が同じ作文を読んでも、疲れているときとそうでないときでは評価が違う可能性がある。順序効果というのは、非常に上手な作文を読んだあとに別の作文を読む場合、その作文がさほど下手ではないにもかかわらず、実際以上に低く評価してしまうなど、順序が影響を与えることである。ハロー効果は、その作文の書き手が、例えば、日本語能力試験 N1 合格者だということを知っていると、その情報が評価に影響を与えることである。(2) は評価者間信頼性 (*inter-rater reliability*) と関係する。上述した「人間による評価の一致の難しさ」に対する指摘や研究は主にこちらに関わるものである。

### 2.3 「機械」による評価

前節のような「人間」による評価がある一方で、「自動評価 (機械評価)」が普及し始めている。大規模テストを視野に入れると、人間の評価では対応しきれないことは自明であり、英語ライティングの TOEFL (TWE) では既に自動採点エンジン、*e-rater* が使われ、英検も 2019 年度から AI 採点が導入されるという。日本語ライティングでは、筆者らが関わった *GoodWriting Rater* が 2018 年 12 月に公開されている。以下に、「機械」と「人間」による評価をまとめる。

#### 「機械」による評価

- ・言語的側面 (言語情報) を正確に (信頼性) , かつ瞬時に出す
- ・疲れしない
- ・「内容」や「構成」や「表現」等のオリジナリティは評価できない
- ・「読み手に対する配慮」も評価できない

#### 「人間」による評価

- ・個人 (評価者) 内においても、評価者間においても一貫せず、不安定である (信頼性)
- ・評価にエネルギーと時間が必要である
- ・機械にはできない *writing expertise* の側面を評価することが可能である

このように、人間の評価は、個人（評価者）内においても、また評価者間においても一貫せず、不安定な面がある。一方、機械は言語情報等を正確にかつ瞬時に出す。しかし、機械は「内容」や「構成」や「表現」等のオリジナリティは評価できない。したがって、人間と機械、それぞれの強みを生かした FB が効果的だと考えられる。

### 3. ラウンドテーブル・ディスカッション

#### 3.1 ディスカッション・トピック

今回のラウンドテーブルでは、「人間」と「機械」、両方の FB を参加者に体験してもらい、その結果をもとにディスカッションを進めた。トピックは、以下の (1) ~ (3) の予定であったが、時間の関係で (1) と (2) のみとなった。

- (1) 作文 X, Y (当日配布資料中の 2 編の作文) の「構成」のフィードバックについて、どのような点が挙げられたか
- (2) GoodWriting Rater は、フィードバックにどのように活用できそうか
- (3) 人間のフィードバックと機械の活用について

GoodWriting Rater は、発表者らが関わったオンラインのライティング評価教師支援ツールである。このツールでは、「自動評価の結果」(ホリスティック評価とマルチプルトレイト評価(「目的・内容」「構成・結束性」「日本語」)の結果と確信度)、総文字数、総文数、文あたりの平均文字数等の「テキスト情報」が表示され、文中のメタ言語を色付けした「メタ言語ハイライト」が示される。詳しくは「Good Writing-JP 読み手と構成を意識した日本語ライティング」を参照されたい。

#### 3.2 ディスカッションの手順

参加者は 29 名であった。内訳は、カナダの大学 7 名、アメリカの大学 2 名、日本の大学 14 名、カナダの語学学校他 4 名、日本の小学校 1 名、不明 1 名である。

まず個人で作業をし、次に 5~6 名のグループで話し合ってもらった。以下に具体的に記す。

- ① 参加者全体に、作文の FB をする際、どのような観点からするかを口頭で尋ねた。回答を得たあとで、今回は「構成」に絞って検討する旨、伝えた。
- ② 参加者全体に、「構成」の FB をするとき、どのような点を見るかを口頭で尋ねた。(以上、ウォーミングアップ)
- ③ 各自で、作文 X, Y (次頁：この段階では「メタ言語のハイライト」なし) それぞれについて、「構成」を中心にどのような箇所・点を FB するかを、作文に書き込んでもらった。
- ④ 5~6 名のグループを作り、③についてグループで簡単に話し合ってもらった。

### 作文 X (作文中のカラーのハイライトは、GoodWriting Rater による)

知り合いのいない国を一週間旅行としたら、個人旅行で行くのとパック旅行で行くのとではどちらのほうがいいかわかりません。

毎旅行の方にプラス面とマイナス面がありますから。

旅行会社がパック旅行を準備してくれるので、とても便利です。たいていガイド付きのパック旅行ですから、観光をすることは本当にかんたんになりますよ。美術館を見学するし、たてものみるし、たくさんの面白いことができますよ。それで、パック旅行はきっと個人旅行より高いだろうが、料金の中に交通費があってホテル代もありますよ。また、団体旅行のですから、美術館でずっとグループの料金があるので、割引があるでしょう。

でも、一人ぼっちの個人旅行がちょっと大変かもしれませんね。問題がある時し、困る時し、旅行会社がないので、助ける人がいません。私たちは誰に連絡することはできません。さらに、外国語が話せないのなら、観光をすることがとても難しいと思います。また、ホテルの予約をすることがちょっと遅いのなら、きつこまっています。旅行会社がないので、こんなことは大変ですよ。

そのあと、個人旅行にいいこともあります。パック旅行はとても便利ですが自分が行きたいところへ行けないのが残念だと思います。個人旅行で、こんなことができます。ほかの人が決めたことをしなくてもいいです。自分で決めたスケジュールをしてもいいです。パック旅行でこんなことができません。それで、パック旅行でたくさん知らない人も私たちと旅行しますよ。個人旅行で、友達や家族だけがいるので、もっと楽しいと思います。私には大事なことです。

そのため、パック旅行より個人旅行のほうが好きです。もしかしたら、日本さくら旅行のプレゼント勝ったら、個人旅行をするつもりです。(734 字)

### 作文 Y (作文中のカラーのハイライトは、GoodWriting Rater による)

もし、知り合いのない国を旅行するとしたら、個人で準備する「個人旅行」とか、旅行会社が準備してくれる「パック旅行」を選ぶか、それを決める前にいろいろなことを考えなければならない。いつ、どこへ、誰と行くか、さまざまな事情があり、どちらにもそれぞれのプラス面とマイナス面があるはず。

個人旅行を見れば、パック旅行より安く、時間を自分で分けており、自分のペースで観光ができる。見たいところに行けるし、観光客はあまり知らなく、人気がないところを訪ねることができるし、自分でやりたいことがやれる。プログラムや時間を守る必要もない。しかし、一人で行くのは寂しいし、準備するのは時間がかかるし、レストランやホテルを探すようなことにも考えなければならない。なお、道に迷って言語を分からない場合、困るだろう。パック旅行と比較すれば、個人旅行より便利でセーフであり、プログラムを自分で計画する必要がなく、案内人もいる。しかし、パック旅行のほうが旅費は高いである。

例えば、私は日本へ行くとき、全部の準備を自分でした。4人のグループのために宿泊、食事、 transportasi や費用などを考えなければならなかった。皆に面白くて楽しいプログラムを作ることは非常に難しかった。A から B まで何分かかかるか、旅費はどうでしょうか、それを分からなくて、ちょっと困った。その上、地図が持っているのに、道を迷った。しかし、人はやさしくて手伝ってくれた。「人は経験から学ぶ」ということは確かであり、今は日本旅行の準備をもっと上手にできると思う。

もちろん、その旅行を個人で準備するために、大学で日本についての勉強はずいぶん助かった。他の国へ行くなら、多分私もパック旅行を選ぶかもしれない。(715 字)

※プロンプト (課題文) は資料 1 参照。

- ⑤ オンラインのライティング評価教師支援システム, GoodWriting Rater を紹介し, 実際に作文 X を Rater に入れてみて, 画面の見方を説明した。
- ⑥ GoodWriting Rater に作文 X, Y を入れた結果を印刷したものを配布し, それを活用すると FB がどのように変わるか, GoodWriting Rater は, FB において具体的にどのように活用できそうかを, グループで検討してもらった。
- ⑦ 参加者全体 (グループ間) で, ⑥ について意見交換を行った。
- ⑧ ディスカッションのまとめと, GoodWriting Rater を FB にどのように活用できるかの提案を行った。

### 3.3 ディスカッションの報告

ディスカッション後に提出されたグループごとの「ディスカッションメモ」, 及び, 当日行った全体の意見交換で出た内容を以下にまとめる。

(1) X, Y の「構成」の FB について, どのような点が挙げられたか

コメントの中には「内容」や「日本語」に関するものもあったが, ここでは「構成」に関するものに絞って述べる。なお, 時間の都合上グループによっては X を中心に話し合われていたため, X に関するコメントが多くなっている。

表 1 は, X, Y の FB から参加者が「構成」をどのような評価ポイントで見ているかを示したものである。全体的に, 「主張の位置」に関するもの, 「序論と結論の呼応」に関するもの, 「全体の論の流れ」「比較の仕方 (プラスとマイナス)」に関するものが多く見られた。

表 1 X, Y のフィードバックから見える「構成」の評価ポイント

項目	内容
主張の位置	最初の段落に主張/意見を明確に述べる (2)
結論部における明確な主張	結論部で主張を明確にする (3)
序論と結論の呼応	序論と結論との一致(序論で立てた問いに対する呼応) (3)
流れ	全体の論の流れを意識した, 主張に沿うような段落構成 (4)
	比較の仕方 (プラスとマイナス) の統一 (量と順番) (3)
バランス	各段落のバランス
接続詞 (メタ言語)	構成・流れをよくするための適切な接続詞の使用 (2)

※表中の ( ) 内の数字は, コメントしたグループの数を示す。

X は第 1 段落で「どちらのほうがいいかわかりません」としているが, 最終段落では「パック旅行より個人旅行のほうが好きです」との主張をしており, それが最初に主張を述べていない, 序論と結論が呼応していないというコメントにつながっている。Y については, 「結論がクリアではなく, 主張とマッチしていない」というコメントがあったが, これは結論でそれまでの議論とは関係ない「日本についての勉強」について書かれていることによるものと思われる。

また, X は, パック旅行のプラス面, 個人旅行のマイナス面を述べた上で, 個人のプラス面とパック旅行のマイナス面について触れ, 最終的に個人旅行を選んでいるが, このような流れについて「最後の主張に合った構成になっていない」

「それぞれのプラスとマイナスが散らばっているような気がして読みづらい」というコメントが挙げられていた。

(2) GoodWriting Rater は、FB にどのように活用できそうか

GoodWriting Rater による作文 X の「自動評価の結果」と「テキスト情報」を例として示す。

＜自動評価の結果＞	
ホリスティック評価	マルチプルトレイト評価
3点(確信度 中)	目的・内容: 3点(確信度 中)
	構成・結束性: 4点(確信度 高)
	日本語: 3点(確信度 低)
＜テキスト情報＞	
・総文字数: 740	・文あたりの平均文字数: 30.6
・総文数: 24	(総文字数 ÷ 総文数)
・総段落数: 6	・全体に対する第1段落の割合: 8.4%
・漢字率: 23.2%	(第1段落の文字数 ÷ 総文字数)
・ひらがな率: 61.8%	・全体に対する最終段落の割合: 8.7%
・カタカナ率: 7.2%	(最終段落の文字数 ÷ 総文字数)

GoodWriting Rater については、表2のようなコメントが出された。全体的には、「テキスト情報」や「メタ言語ハイライト」はFBに有効であると捉えられている。「テキスト情報」については、「ある程度指標とはなるが、解釈が必要なもので数字ではなく具体的なFBがあると学習者が使えるものになっていい」とのコメントが出された。しかし、機械は数字を算出することまでしかできないため、その数字(情報)をどのように活用してFBするのかは教師の役割となる。「メタ言語ハイライト」は、接続詞等を機能別に色分けして示すものである。特に、パラグラフ冒頭の接続詞の使用からは、パラグラフ間の結束性が可視化されることになる。参加者からは、「正確に使われているか、また、同じような接続詞ばかりが使われていないかがわかりやすい」という意見がある一方で、「それをどう修正するかは人間(教師)がするほうが学習者にとってよい」との意見もあった。

「自動評価の結果」については、参考にはできるが、人間の評価と常に一致するような精度には至っていない。また、評価と確信度の解釈の仕方がわかりにくいとのコメントもあった。今回は時間の制約上、詳細な説明はできなかった。詳細はウェブサイトを参照していただきたい。教師の使用法としては、「接続詞を変えてみたら評価結果も変わると思うので、教師が言葉を入れ変えて使ったりすることもできる」という意見が出された。これは、本システムの使用法の新たな視点であり、今後検討していきたい。

表2 GoodWriting Rater の活用に関する意見

項目	内容
全体	バイヤスなしの評価として参考にできる
評価・確信度	学習者は点数（点数の意味）を知りたがるのではないか
	人間による評価とホリスティック評価は感覚的に一致している
	文法は評価があっているが、構成と内容は人間のほうが低かった
	構成の流れが分かりにくいと言っていたのが機械でも出ていた
	確信度と評価をどう合わせて点数を読めばいいか分からない
接続詞を変えてみたら評価結果も変わると思うので、教師が言葉を入れ変えて使ったりすることもできる	
内容・構成	構成、内容の評価は人間のFBと差がある
	大きな構成のFBは人間がする
日本語	「日本語」という評価の枠が大きすぎ、何を指すのか分からない
	文法は評価できる
テキスト情報	テキスト情報はある程度指標とはなるが、解釈が必要なので数字ではなく具体的なFBがあると学習者が使えるものになっていい。教師が使えるものというより、学習者にフレンドリーなものになるといい
	日本語の細かな点（語彙、文の長さなど）は機械が見つけられる
メタ言語	接続表現がどうであるかは機械が見せてくれる。それが目的一構成に合致しているか、書き手の思いに合致しているか、それをどう修正するかは人間（教師）がするほうが学習者にとってよいのではないか
	接続詞の位置と種類が色で見られるのはいい
	接続詞の使い方が正しいかどうかチェックしやすい
	同じ接続詞の乱用が一目でわかる

その他、参加者からは「FB は人間がするほうが学習者の意図を探りながらできる」「（機械だと）どこが大事か同僚と共有できなくなる」という意見が出た一方で、「学内で同僚と一緒に使ってみるといい」「ピアフィードバックにも使える」といった、他者と共に使用する方法が提案された。

### 3.4 ディスカッションからの示唆：FBにおける「機械」（GoodWriting Rater）の活用

GoodWriting Rater の活用に関しては、以下のようにまとめられる。

- ① 自動評価 (GoodWriting Rater) のレベル判定の精度は完璧ではない。あくまでも GoodWriting Rater は教師支援ツールであり、学習者支援ツールではない。ただし、FB で学習者と教師が一緒に使用するのには問題ない。
- ② 言語の FB に終わることなく、writing expertise の FB が重要である。
- ③ ただし、「内容」の評価を機械に委ねることには、現段階では無理がある。
- ④ それに対し、「構成・結束性」は、今回出された「主張の位置」「結論部における明確な主張」「序論と結論の呼応」「比較の仕方の統一」のような内容にも関係するものは機械では判定できないが、「各段落のバランス」「接続詞 (メタ言語)」やそれに伴う「全体の流れ」は機械で客観的に評価、FB することが可能である。
- ⑤ FB における GoodWriting Rater の活用  
「テキスト情報」「メタ言語ハイライト」に関して、具体的には以下のように活用できる。

#### (1) 「テキスト情報」の活用

「漢字率」に関しては、プロンプトや学習環境によって異なるが、作文 X, Y は、それぞれ 23.2%, 25.7% であり、差異はなかった。同じクラス内なら、比較も可能である。

「文あたりの平均文字数」に関しては、必ずしも 1 文が長ければよいというものではないが、日本語レベルが上がると増加する傾向がある (佐々木・阿部, 2017)。X, Y は、それぞれ 30.6, 39.8 であり、自動評価の「日本語」は、順に「3」「4」である。1 文のより長い Y のほうが高く評価されており、結果は矛盾していない。

序論や結論に相当するパラグラフがある場合には、「第 1 段落の文字数÷全体の文字数」で、序論が全体に占める割合が分かり、同様に「最終段落の文字数÷全体の文字数」で、結論が全体に占める割合が分かる。序論・本論・結論のバランスは、ライティング (小論文・レポート) の長さに応じて、「序論・本論・結論=1:3~5:1」のバランスが適切だと考えられる (田中・阿部, 2014)。例えば、X は序論が 8.4%, 結論が 8.7% であり、もう少し膨らませる工夫が必要である。また、中国語話者のライティングは、序論が長い傾向があるが (田中・坪根, 2011 他)、この機能によって学習者に具体的に指摘できる。

#### (2) 「メタ言語ハイライト」の活用

パラグラフの冒頭に使われている「メタ言語」をみると、そのライティングの「マクロ構成」が凡そ分かる。また、パラグラフの冒頭のメタ言語は、パラグラフ間の「結束性」にも関係する。したがって、このメタ言語はライティングの構成・結束性にとって重要なものであり、適切に使われていない場合には、内容の理解に支障を来す可能性もある。X の「でも」「そのあと」は論理的に不適切であるため、読み手のスムーズな理解の妨げとなっている。



また、メタ言語の中には、「パラグラフの冒頭に使われるメタ言語」とそうでないものがある。X の最後のパラグラフの冒頭の「そのために」や Y の「例えば」「もちろん」は、パラグラフ内で使われるのが一般的であろう。

#### 4. 結語

これからの時代においては、機械の使用も含めて FB を考える必要がある。しかし、機械にも限界がある。機械は「テキスト情報」は瞬時に正確に出し、「メタ言語」もハイライトする。しかし、構成全体の流れ（例えば、序論と結論の呼応）や各段落の中身等、内容と関わるものは判断できない。本ラウンドテーブルが、機械を有効活用しつつ、それに教師（人間）による視点を加えた効果的な FB の方法を検討していく機会となることを願う。

#### 参考文献

- Good Writing 科研（2018年12月2日）＜“GoodWriting Rater”完成公開セミナー＞「日本語ライティング評価の支援ツール“GoodWriting Rater”の活用の可能性：「人間」と「機械」による評価の統合的活用」配布資料 於東京外国語大学
- 佐々木藍子・阿部新（2017）「日本語学習者のエッセイに見られる評価群別の言語特徴—I-JASにおけるヨーロッパ学習者のデータを対象に—」『第三回 学習者コーパス・ワークショップ予稿集』32-37. 国立国語研究所
- 田中真理（2015）「ライティング研究とフィードバック」大関浩美（編著）名部井敏代・森博英・田中真理・原田三千代（著）『フィードバック研究への招待—第二言語習得とフィードバック』第4章 107-138. くろしお出版
- 田中真理（2016）「パフォーマンス評価はなぜばらつくのか？—アカデミック・ライティング評価における評価者の「型」」宇佐美洋編『「評価」を持って街に出よう—「教えたこと・学んだことの評価」という発想を超えて』第2章 34-53. くろしお出版
- 田中真理・阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート—読み手と構成を意識した日本語ライティング』くろしお出版
- 田中真理・坪根由香里（2011）「第二言語としての日本語小論文における good writing 評価—そのプロセスと決定要因—」『社会言語科学』14(1), 210-222.
- 田中真理・長阪朱美（2009）「ライティング評価の一致はなぜ難しいか—人間の介在するアセスメント—」『社会言語科学』12(1), 108-119.
- 坪根由香里・田中真理（2015）「第二言語としての日本語小論文評価における「いい内容」「いい構成」を探る—評価観の共通点・相違点から—」『社会言語科学』18(1), 111-127.
- Cumming, A. (1989). Writing expertise and second-language proficiency. *Language Learning*, 39, 81-141.
- Hamp-Lyons, L. (1991). Scoring procedures for ESL contexts, in L. Hamp-Lyons (ed.), *Assessing second language writing in academic contexts* (pp.241-276). Norwood, NJ: Ablex.
- Hamp-Lyons, L. (2007). Worrying about rating. *Assessing Writing*, 12, 1-9.

- Kondo-Brown, K. (2002). A FACETS analysis of rater bias in measuring Japanese second language writing performance. *Language Testing*, 19, 3-31.
- McNamara, T. (2000). *Language Testing*. Oxford: OUP.
- Weigle, S. C. (1994). Effects of training on raters of ESL compositions. *Language Testing*, 11, 197-223.
- Weigle, S. C. (1998). Using FACETS to model rater training effects. *Language Testing*, 15, 263-287.
- Good Writing-jp 読み手と構成を意識した日本語ライティング・「日本語ライティングの自動評価システム：GoodWriting Rater」：<<http://goodwriting.jp/wp>> (閲覧日 2019年7月7日)

## 謝辞

本研究は、JSPS 科研費 26284074 「日本語ライティング評価の支援ツール開発：「人間」と「機械」による評価の統合的活用」（田中真理代表）並びに、JSPS 科研費 19H01274 「日本語ライティングにおけるナラティブの Good Writing 探究と評価法の開発」（坪根由香里代表）の助成を受けました。

## 資料 1：プロンプト（課題文）

あなたは以下の作文コンテストのポスターを見ました。そして、この作文コンクールに応募することにしました。

「個人旅行」と「パック旅行」

知り合いのいない国を1週間旅行するとしたら、個人で準備する「個人旅行」と、旅行会社が準備してくれる「パック旅行」と、どちらで行きますか。

それぞれのプラス面とマイナス面を挙げて比較し、旅行についてのあなたの意見を600字～800字で書いてください。

入賞された方には、日本への往復航空券（1カ月有効）をプレゼントいたします。

日本さくら旅行